災害救援

愛と協同に基づく災害救援活動

活動の概要

コープこうべは、協同互助の精神に基づき、組合員の生活の文化的・経済的改善向上をはかり、公共の福祉を増進するとともに、健全なる社会の確立に貢献することを目的としています。

災害時においても、1995 年の阪神・淡路大震災、2004 年の台風 23 号被害、県外では新潟県中越地震などを教訓にして、災害支援やボランティア活動を行ってきました。

‘09 年の台風 9 号兵庫県西・北部豪雨では、ハート基金（コープこうべ災害緊急支援基金）から 100 万円を兵庫県社会福祉協議会（災害救援本部）に寄贈、「台風 9 号災害緊急募金」を実施し約 330 万円を兵庫県に寄贈、コープ委員会などによる店頭募金活動の実施、大震災以降連携するNGO「被災地NGO協働センター」と協働でボランティアバスの運行、店頭でのボランティアの募集、被災地に約 3 万枚のタオルの送致などに取り組みました。

全店で回収箱を設置、組合員にタオルの提供を呼びかけ

ボランティアの支援で泥かき

成果

阪神・淡路大震災以降、社会福祉協議会や NPO、ボランティア団体とのネットワークの構築に努めてきたこともあって、災害時の情報収集や支援活動に成果を発揮しています。

組合長理事より兵庫県知事に募金贈呈

課題

災害時に的確に組織として対応していけるように災害対応マニュアルなど日ごろから準備・点検しておくこと。

夢・抱負・今後の推進方向

非常時はもちろんのこと、日時的に助け合い支えあう地域社会を作っていきたい。

団体名：生活協同組合コープこうべ
氏名：組合長理事　浅田　克己　（問い合わせ対応）生活文化・福祉部　西保　昇
事務所の所在地：神戸市東灘区田中町 5-3-20　生活文化センター西館 2 階
電話：０７８－４１２－２０８１　FAX：０７８－４３１－５８２０
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.kobe.coop.or.jp/

ノウハウ・コツ

⑨活動の展開　組織や組合員数の規模を生かして迅速な災害支援

コープこうべの所属数は供給所属だけで約１７０、組合員は約１４０万人です。この組織規模を生かして、台風 9 号兵庫県西・北部豪雨の災害時には、被災地にタオルを送る取り組みや災害ボランティアの募集をしました。

タオルの提供を求める取り組みは全所属で行い、タオル約 3 万枚を協同購入センター西播磨に集約し、コープ職員とボランティアが佐用町災害ボランティアセンターに届けました。

また、兵庫県社会福祉協議会、ひょうごボランタリープラザ、ＮＧＯと協働して、あるいは被災地では地元コープが自主的に、組合員・職員を中心にボランティアを募集し、ボランティアバスを運行して佐用町等の復旧支援活動に参加しました。

組織力を生かし、また日頃の地域に根ざした各種活動実績を生かして、系統立って迅速に動くことができました。

⑥ネットワークづくり　異業種間の平常時から顔の見える関係の構築

ひょうごボランタリープラザが事務局を務める「災害救援ボランティア活動支援関係団体連絡会議」に加盟しています。これは、災害時にそれぞれの資源・能力を生かして救援ボランティア活動が最大限の効果を挙げられるよう、さまざまな分野のNPOや団体、行政等が加盟し、ネットワークの構築をめざしている会議です。

‘09 年の台風 9 号兵庫県西・北部豪雨では、同会議に参加する日本赤十字社兵庫県支部からの依頼に応じ、炊き出しに使うレトルトカレー2,000 食を手配しました。同じく参加する市町社会福祉協議会を支援するため、災害ボランティアセンターでの運営支援として、ボランティアのマッチングやセンターに必要な資材を手配しました。

普段からの顔の見える関係の構築が、災害時に迅速、効果的に被災地のニーズに合った緊急物資の提供を可能にしました。

タオルを被災された組合員に届ける

コープ委員会などによる店頭募金活動

ひとことメッセージ

災害直後だけでなく、佐用町での被災地復興バザーに協力したり、年末 26 日(土)～28 日(月)には神戸 YMCA が主催する余島クリスマスキャンプ（台風 9 号で大きな被害を受けた兵庫県佐用町の子どもたちに、冬休みに被災地を離れ、心と体のリフレッシュをしてもらえるよう企画）に神戸市社会福祉協議会とともに協賛するなど、長い目で支援活動を続けています。

地域安全

自転車のルールとマナーを守って、安心・安全で住みよいまちづくりを

活動の概要

私たちの住む井吹台はまち全体がバリアフリー化されているため、幼稚園の送り迎え、通勤・通学、ショッピングに多くの人が自転車を利用しています。健康づくりにもエコにもよい自転車です。しかし、一歩間違うと人身事故にいたる危険があり、盗難・放置自転車は空き巣の下見など犯罪に使われることもあります。まちの中の放置自転車や駅前の不法駐輪も多く、自転車盗難数は神戸市西区内で第１位という状況です。

名誉を挽回し、みんなにとって安全な自転車利用を促進しようと、当会の部会として「自転車井戸端会議」を立ち上げました。これは、連合自治会、関係行政機関から構成され、少人数の有志で問題の検討を進めています。

「井戸端会議」で他の地区の事例見学や勉強会を重ねる一方で、連合会の年間重点目標に自転車のルールとマナーを守ることを掲げ、まち全体に周知するほか、団地の理事会に依頼し、各マンションの自転車置き場の不用放置自転車を整理・処分しました。

駅周辺の駐輪場を再認識してもらうスタンプラリーや、交通ルール改正にともない警察と連携してのルール教室「いぶき自転車ひろば」なども開催しました。また、子育て世代に３人乗りでも安全な自転車を紹介しました。小・中学校にお願いして保護者や生徒に自転車利用に関するアンケート調査を行い、見えてきた問題を整理し、住民みなさんに報告しました。

成果

アンケート調査等での意見・指摘から、警察の協力のもと当連合会がルール、マナーブックを作成・全戸配布するなど、具体的な改善につなげました。

課題

住民が自動車やバス、自転車のかしこい利用を考えて生活スタイルを見直すこと。

夢・抱負・今後の推進方向

レンタサイクルシステムの導入なども含め、環境も意識したまちづくりを進めていきたい。

団体名：井吹台自治会連合会
氏名：坂本　津留代
事務所の所在地：神戸市西区井吹台東町１－２０－７
電話：０７８－９９２－７５３３　FAX：０７８－９９２－７５３３
E-mail：fure_ibuki@maia.eonet.ne.jp

ノウハウ・コツ

⑦行政の活用　関係機関と一緒に役割分担を

地域でできていることを確認した上で、地域でできることは何か、行政にお願いすること、行政でないと解決できないことを仕分けして、両者でコミュニケーションをとりながら進めます。特に、行政に管理・管轄上責任をもってもらわなければならないところは強く要求していきます。

行政と連携をとって明確に役割分担することで、より効率よく大きな効果を上げることができます。

⑥ﾈｯﾄﾜｰｸづくり　柔軟に対応できる部会を設置することで連携が容易に

部会である自転車井戸端会議は柔軟な組織なので、進行中の問題に関連のある部門、機関との連携が容易にできます。

自転車問題のアンケート実施では、小中学校ＰＴＡに依頼することにより回収率も高く、神戸市交通局の交通システムについてのアンケートと同時に実施することにより、必要経費の削減につながりました。

年間 10 回程度地域活動をする小・中学生ジュニアチームもあり、活動の中で、子供たちから親へと活動が伝わり、学校の先生方ともつながりが生まれます。

今後は、地元の工業会とネットワークを組んでレンタル自転車のシステムを検討していきたいと思います。

⑨活動の展開　町全体で問題点を洗い出し、目標設定し、取り組む

はじめから行政に解決策を要望するのではなく、まず地域での問題点を連合会で取り上げ、住民の理解と協力を得ながら、地域でできることは何かを考え、今後何が必要で一番の問題点なのかを選択します。

問題点がわかったら連合会重点目標を掲げ、町を挙げて取り組みます。

（活動前）駐輪場入り口付近に乱雑に駐輪

（活動後）駐輪スペースを増設・整備

ひとことメッセージ

自転車は便利でエコな乗り物ということだけでなく、駐輪しようとしている場所は？　使用料は？　自転車によって起こる事件・事故などの問題点は？　とあらゆる角度から住民が問題意識をもって見守ることが大切です。

あらゆる団体・関係機関が連携し、ひとりでも多くの人々にかかわりをもってもらい地域に早く広く知らせ、協力を得ることで早期解決の道筋が見えてくるのではないかと考えます。

地域安全

親子で防犯教室

活動の概要

兵庫県が推進している「ひょうご家庭応援県民運動」に賛同し、家庭応援団に参画したことをきっかけに、兵庫県内に限り、保護者と児童が同時に参加できるプログラム「親子で防犯教室」を提供しています。

授業を行うスタッフは、社内において研修・試験を通じて講師としてのノウハウを習得した者で、県内に 20 名程度います。

「親子で防犯教室」は、平成 21 年 10 月から平成 22 年 1 月の間に 3 回実施いたしました。また、平成 21 年 11 月には神戸市中央区のラッセホールにて開催された「ひょうご家庭応援県民大会」において「親子で防犯教室」の活動について発表をさせていただきました。

成果

授業は子どもたち一人ひとりに防犯意識を醸成することを目的としています。保護者の方も同様に参加することで子どもたちが危機に直面したときに「どういうことを考えるのか？」や、「どういった行動をとるのか？」ということについても気づいていただき、話し合う良い機会となっています。

また、「ひょうご家庭応援県民大会」での発表をきっかけに、宝塚市婦人会様から「親子で防犯教室」の実施を依頼されました。

課題

おかげさまで概ね好評と伺っております。故に多くのご依頼をいただいておりますが、スタッフも通常の勤務の合間を何とかやりくりしながら一生懸命対応しております。授業の進行が可能なスタッフの育成は今後の大きな課題です。

夢・抱負・今後の推進方向

1 人でも多くの子供たちを犯罪から守りたいという願いは、現代社会の大きなテーマです。当社は経営理念である「ありがとうの心」を具現化するため、「守りのプロ」として社会のお役に立てるよう精一杯尽力いたします。

団体名：綜合警備保障株式会社
氏名：清水　了　　今井　仁也
事務所の所在地：兵庫県神戸市中央区磯辺通４－１－４４
電話：０７８－２２２－６９７１　FAX：０７８－２２２－６９７９
E-mail：koube-ek@alsok.co.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.alsok.co.jp/

ノウハウ・コツ

親子共同参画

授業は主に子どもたちを主役として進行しますが、同時に保護者の方々が子どもたちの様子や言動を直接的に感受することができます。ただ単に子供たちだけで考えて行動するのではなく、親子で一緒に考え、答えを導きだせるようプログラムを工夫しています。

ロールプレイング形式

講義形式みたいに「聞く」のではなく、グループ発表や電話応対の仕方など「実際にやってみる」ことを意識させ、好奇心を持って参加できるようプログラムを作成しています。

ひとことメッセージ

各企業、各団体が子どもたちに対して、各々が持つ知識・ノウハウを伝えていくことで将来を担う子どもが素晴らしい大人に育っていく社会になっていけば良いと思います。

子どもたちの安全、安心は社会共通のテーマです。光り輝く子どもたちの未来のため、皆様とともに頑張りたいと思います。

災害救援

安心して暮らせる、災害に強いまちづくり

活動の概要

阪神・淡路大震災時に、被災者を救援するために全国から集まったボランティア、被災地域のボランティア団体、行政機関（西宮市）が連携した「西宮ボランティアネットワーク」（1995 年 2 月）が設立され、「西宮方式」と呼ばれる民間と行政の一体化した救援活動を行いました。当会は、その活動理念を引き継ぎながら、'99 年に兵庫県第１号の『特定非営利活動法人』の認証を受け、体制も新たに再出発しました。

災害から市民の生命と財産を守るため、災害救援に携わる国内外のボランティア団体や各種団体等が互いに協力し、また、行政機関と緊密な連携を保ちながら行う速やかな被災者の救援、被災地域の復興活動を側面から支援することを目的としています。

現在の活動は、災害時には、国内外のボランティア団体をはじめ、行政、企業など産官学民の枠を超えた連携を呼びかけ、被災者救援、被災地の復興活動支援をしています。平常時には、災害時の混乱を最小限にするための全国災害救援ネットワークの構築、各地域で防災や災害救援、災害に強いまちづくりに携わる人たちのための研修プログラムの企画・運営、次代を担う子どもたちのための防災ワークショップの企画・運営を行っています。

阪神・淡路大震災での経験を生かし、災害時には各地の被災地で災害ボランティアセンターを設け、運営を支えています。'97 年の日本海重油流失事故災害、'99 年の台湾・トルコ大震災、'04 年の新潟県中越地震、07 年の新潟県中越沖地震、'09 年の佐用町等が記録的豪雨にみまわれた兵庫県西・北部豪雨などで活動しました。

成果

災害救援活動により、少しでも被災者のお役に立つ活動ができ、子どもたちの防災啓発にも貢献できました。

課題

活動を継続していくためには、有給の人材を確保していく必要がありますが、阪神・淡路大震災から１５年が経過し、財源の確保が大きな課題です。

夢・抱負・今後の推進方向

地元の行政や企業、大学などと連携して、災害に備えて地域の防災力を高めていくために地域の住民のきずなの再構築をしていきたい。また、ＮＰＯに寄付などの資金が流れる仕組みづくりなどにもチャレンジしていきたい。

団体名：ＮＰＯ法人　日本災害救援ボランティアネットワーク
氏名：（理事長）渥美公秀
事務所の所在地：　西宮市櫨塚町２番２０号　西宮商工会館南館
電話：０７９８－３４－９０１１　FAX：０７９８－３４－９０２２
E-mail：nishinomiya@nvnad.or.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.nvnad.or.jp/

ノウハウ・コツ

⑥ネットワークづくり　顔の見えるネットワーク

阪神・淡路大震災をはじめ、各地の災害現場で強く思うのは、地域住民同士や産官学民の連携・顔の見える関係がとても大切だと思います。被災直後は、地域住民同士がお互いに助け合うことがとても重要ですし、救援ボランティアの側でも、行政や社協、地元の団体などの担当者といかに早くつながるかということが求められます。いざという時に備えて、日頃からの人と人とのつながりが災害時には大きな力を発揮します。普段から、地域のイベントやお祭りなどでもいいと思いますので、積極的に参加して、１人でも多くの方との交流をしてください。それがいざという時には役に立つと思います。

⑦行政の活用　行政との連携が大切

災害時には、行政と連携して救援活動を行うのは当然必要になりますが、平常時にも行政との連携は大切だと思います。ボランティアや市民活動といっても、多くは地域の課題を解決するために活動する場合が多いかと思いますので、自分たちだけではどうにもならない時には、地元の行政の担当窓口に一度相談してみるのもいいかと思います。これからは、参画と協働の時代です。市民と行政が協働して、地域の課題や問題などに取り組み、少しでも地域が住民によってよりよいまちになっていくことにつながればと思います。

⑧組織運営　大学生の協力を最大限に生かす

平常時の活動では、子どもたちを対象にした防災教育の活動を実施しています。地域を歩いて手作りの防災マップを作成したり、山へ行ってネイチャーゲームや木を切ったりする森林体験ツアーなどを行っていますが、毎回スタッフだけではなく、大学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんたちがリーダーとして運営に関わってくれています。大学生のリーダーが参加・協力してくれることによって、子どもたちも楽しく行事に参加でき、とても効果的な内容が実施できています。

ひとことメッセージ

昨年(２００９年)８月の兵庫県西・北部豪雨の時に、佐用町の救援活動に関わりました。その後、佐用町の復興フェスティバルを地元の行政や社協などとともに、実行委員会形式で開催させていただきました。また、現在も継続して竹炭焼き体験など学生さんたちと一緒に、佐用町の皆さんと定期的に交流をさせていただいています。被災地と救援ボランティアという関係を超えて、人と人とのつながりの大切さを改めて実感しています。同じ兵庫県内として、これからも地道な交流活動を行っていきたいと思っています。

消費者の保護

消費者教育の推進－実効性のある消費者教育支援センターを目指す

活動の概要

すべての人間は生まれてから死ぬまで消費者として生活するにも拘らず、学校教育や社会教育において系統だった消費者教育は実施されていません。そのため若者のカード破産や、高齢者が悪質商法の被害に遭い大切な老後の資金を失うなど、消費者被害が後を絶ちません。消費者問題は社会情勢とともに日々変化し、専任の研究グループが組織されていない学校教育や社会教育の現場ではタイムリーな対応が困難な状況です。

NPO 法人 C・キッズ・ネットワークは、消費者被害と問題点を調査研究し、対象者に応じたテーマごとの分かりやすく、楽しい参加型の消費者教育プログラムや教材を研究開発しています。開発した教材や教育プログラムは、消費生活センターや生活協同組合などと連携して、学校や地域への出前講座に活用しています。

メンバーは、消費生活専門相談員や消費生活アドバイザーなどの専門資格を持ち、子育て中の主婦から企業をリタイアした男性まで多岐にわたります。教師や相談員などの現職もおり、ファイナンシャルプランナーや省エネ普及指導員などの有資格者も多くいます。

福岡県や島根県の教育センターや福井県や名古屋生協へも出前講座を行いました。対象者も幼児から高齢者までの消費者のみならず、教員研修や地域講師、教育大の学生など、講師や将来の教師を対象とした講座もあります。これらの活動は、地域の消費生活センター、生活協同組合や大学の教育学部等と協働してやっています。

成果

‘06 年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰　環境教育・普及啓発部門表彰を受けました。

課題

助成金や消費生活センターや生協との連携だけでは人件費や交通費が確保できません。人件費を十分に支給できないため、メンバーが就職してしまい、マンパワーが不足します。

夢・抱負・今後の推進方向

すべての子どもたちが公教育の場で消費者教育を受けるとともに、地域や会社、PTA などを通じてすべての者がライフスタイルに応じたタイムリーな消費者教育を受ける社会の実現をめざしています。そのために、実効性のある消費者教育支援センターとなりたいと考えています。

これまで以上に各地の消費生活センター、生協、大学と連携して、消費者教育の充実を図るとともに消費者行政に提言できるような活動を行いたいと考えています。

団体名：　NPO 法人　C・キッズ・ネットワーク
氏名：(理事長)　大森　節子
事務所の所在地：　〒665-0014　兵庫県宝塚市青葉台１－１５－８
電話：　０７９７－７２－８５７１　　FAX：　０７９７－７２－８５７１
E-mail：ckids.net@gmail.com
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.hyogo-intercampus.ne.jp/gallery/c-kids/

ノウハウ・コツ

①人材育成　チームで育成－例会でのデモとミニ学習会

PTA 向け食育、中学生のネット、高齢者の悪質商法など対象者テーマごとにチームがあります。それぞれのチームにはチーフが存在し、またメンバー相互でも意見を出し合い、その講座ができるように新人を育てます。

毎月の定例会では､講座のデモやミニ学習会などを行い､講師のスキルアップや研修が可能となっています。

⑤広報・情報共有　ＨＰ、メーリングリストを活用

メンバー全員がメーリングリスト（ＭＬ）に参加しています。それぞれのチームの活動では議事録を、講座では企画書・報告書・アンケートをＭＬにアップすることで情報と成果の共有化が図られます。また、ＭＬを活用することで遠距離や時間的な余裕のないメンバーも活動に参加しやすくなります。ＭＬではチーム外のメンバーも発言することもでき、講座の見学も可能です。

講座の実績や様子は随時ＨＰにアップし、また広報誌も作成し外部へ情報発信しています。

⑧組織運営　担当者と仕事の内容を明確に　運営はメンバーの総意で

意見・提案があるメンバーは、例会の議題に載せます。例会で議論された内容は理事会で案を作り、メンバーに諮り、会のルールとなります。

理事会には理事と共に 7 つの事業部長が参加し、具体的な計画を策定します。消費生活センターや生協など顧客の窓口担当やプログラムのチーフなど、メンバーが役割分担して、それぞれの責任を担っています。全員参加総意の運営が会の基本です。このような取り組みで経費は節約されるとともに、多くのメンバーが会員意識を持つようになります。

ひとことメッセージ

相違点を問題とするのではなく、共通点を大切にしてネットワークを広げよう！

地域安全

地域の防災・防犯の啓発と住民協力の体制づくり

活動の概要

塩屋地域の防災・防犯の啓発をし、意識を高めるとともに、情報を共有化し、可能な限り住民同士が協力できる体制をつくることをめざし、地元の若い世代の有志を中心に30名程度のメンバーで活動の体制づくりに取り組んでいます。

毎年、管理している“おらら野公園”で防災・防犯の啓発行事として「おらら野夏祭り」を開催し、400 名程度の参加者があります。’09 年は、西播磨地域の理学療法士の協力を得て、防災築炉、作成が簡単な居住空間(災害時にも使用可)であるスタードーム、ベニヤドームの製作を行い、実践的な防災訓練としたところ、地区の人から次回もぜひ！という声が多くありました。また、キャッチボールのできる公園として㈳プロ野球協会の後援を受け、プロ野球OBによるキャッチボール教室を“おらら野公園”で行いました。

また、塩屋小学校地区の通学路点検アンケートと小学生とともに再点検を行い、当日の小学生の意見を加えた通学路点検マップを作成し、塩屋地区 2,000 戸に配布しました。

成果

ｽﾀｰﾄﾞｰﾑを製作

神戸灘区の自治会、京丹後市峰山地区地区長会などが、視察に来られ、防災の考え方が地域を越えて認められたことはうれしい限りです。

おらら野夏祭りも地区の防災まつりとして定着し、祭りの賛同者が毎年増えて自治会の枠を超えたイベントとなっています。

100 人のキャッチボール大会のおかげで、子どもたちが昔の遊び「ろくむし」を復活させ、公園に集まって遊ぶようになりました。

また、通学路点検では、子どもたちしか知らない危険な場所を特定でき、今後の安全確保のための活動展開に有意義なことでした。

課題

若い人の協力は得られていますが、各自治会の役員にはまだ十分な協力は得られていません。自治会の縦糸をつなぐ横糸に私たちがなれるように、行動を起こし続けてゆくことが必要と考えています。

ｷｬｯﾁﾎﾞｰﾙ教室の開催

夢・抱負・今後の推進方向

塩屋地区の４つの自治会がもっと協力し合って、動けるようにしたい。　若い人の活力があふれる町にしていきたい。

私たちのクラブは、気軽に誰でも参加でき、去るものは追わずのスタンスをもって、自分たちの楽しみを地域の人に還元してゆく気持ちで長く活動を続けていきたい。

団体名：おらら野クラブ
代表者氏名：(会長) 松本　尚志　　(副会長) 山本　建志
事務所の所在地：赤穂市塩屋４１０－１１
電話：　０７９１－４３－２６６０　FAX：　０７９１－４３－２６６０
E-mail：tatesi@joy.ocn.ne.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.geocities.jp/shioyapark/index.html

ノウハウ・コツ

⑦行政の活用　住民主導で行政の参加を求める

年度ごとの企画及び運営を主要なメンバーで検討し、行政に協力要請できることをまとめておき、地区の行事説明の会場に必ず行政職員に参加を要請し、行政サイドに手伝ってほしいこと、自分たちですることを明確にしています。そうすることで実施段階でも役割分担がスムーズに行えます。

通学路点検マップでは、作成後、安全確保のために行政にしてもらわなければいけないことは行政に交渉に行きました。危険個所の抽出ができているので、行政に速やかに対処に動いてもらえます。

⑨活動の展開　地域住民ができるだけ多く参加できる工夫をする

事業実施にあたり、コンエセプトをまとめた企画書を作成して関係者に説明し、できるだけ多くの住民が参加できるよう手法を複数用意して実施します。

例えば、通学路点検マップでは、小学校を通じて保護者への危険個所のアンケートを実施し、メンバーがそれらをすべて地図に書き込みます。それをベースに小学生とともに歩いて再点検を行い、マップを完成させました。たくさんの住民が関わることで危険個所が網羅でき、また地域の安全への住民みんなの意識が高まります。

塩屋地区通学路点検ﾏｯﾌﾟの作成

⑥ﾈｯﾄﾜｰｸづくり　若いメンバーの協力体制づくり

地区の活動のために小学校ＰＴＡの地区役員に活動主旨を説明し、メンバーとして協力していただいています。

ＰＴＡの役員の任期は１年ごとなので、役員を辞めるときには、メンバーに残って協力していただくよう、毎年、年度替わりに新旧交代の親睦会を開催しています。

⑤広報・情報共有　広報の有効利用

クラブで作成する広報誌は、地区のことを考えた案件を優先的にとりあげることとしています。回覧にあたっては、自治会に協力体制を取り付け、自治会を通じて回覧することになっているので、全戸配布がスムーズに行われます。

また、配布した広報紙は、必ずホームページに掲載し、他の地区のイベント等に有効活用できるのであれば提供するようにしています。

ひとことメッセージ

住民、自治会の役員、団体等に協力を要請する時には、要請される側の立場を考え、行動を起こしてゆくこと。また、断られないように要請するためには、事業説明をする時に一堂に会して説明することです。

地域安全

あいさつを通じ安心・安全に暮らせるまちづくり

活動の概要

学校への登下校時、通学路や自宅付近など身近な生活の場で、子どもが事件や事故に巻き込まれることが全国的に相次いでいます。これらの犯罪を未然に防ぎ、安全で安心な地域をつくるため、地区町内会が中心となって、防犯パトロールや市立洲本第２小学校の児童の登下校特に見守り立ち番をする活動を平成18年12月から実施しています。

当グループは、当初13の町内会で始めましたが、現在は18の町内会すべてが参加するようになりました。各町内会長が役員となり、メンバーに協力を呼びかけています。

防犯協会や地域ふれあいの会などと連携をとり、防犯についての研修会なども開いています。

朝のあいさつ

朝の見守り

成果

児童、通勤者、地域住民によるあいさつが定着し、地域のコミュニケーションが潤滑になり、地域の活動がやりやすくなりました。

課題

会員はほとんど高齢者であり、今後若い世代が参加しやすい活動内容を考えていきたい。

夢・抱負・今後の推進方向

あいさつを通じ、地域内に顔見知りが増え、安心して暮らすことができる地域にしたい。

今後もあいさつ運動に重点をおき、この運動が全市に広がり、明るい活力のある地域をめざしたい。

団体名：内町地区防犯グループ
氏名：川添　義巳
事務所の所在地：洲本市本町四丁目１－２－４
電話：　０７９９－２２－７０９８

ノウハウ・コツ

⑨活動の展開　柔軟な運営とルールの徹底

高齢化が進む地域なので継続した活動は難しいため、グループ分けをしたり、参加する日を自由に設定できるようにするなどの工夫をしています。

また、メンバーとリーダーは常に意見交換をするようにしています。子どものケンカなどの報告もありますが、見守っていくことで徹底し、学校へ相談に行く窓口はリーダーに限定し、外部には一切口外しないことをルール化しています。

⑧組織運営　リーダーが一番汗をかく

メンバーは高齢者なので、コンスタントに活動してもらうために工夫が大切です。例えば、リーダーはできるだけ短時間でもパトロールに顔を出し、監視しているのではないことを理解してもらえるよう配慮しながら、「ごくろうさま」の声をかけます。メンバー任せにせずに、リーダーが一番汗をかくことです。また、地域の人から感謝されていることをメンバーに常に伝えるようにしています。

⑥ﾈｯﾄﾜｰｸづくり　学校との連携を大事にする

学校もパトロールしてくださっている人にあいさつをするように子どもに指導しているので、子どもはメンバーに大きな声であいさつをしてきます。ただし、子どもの安全を守るため、学校は、緑のユニホームと帽子をつけた人へのあいさつを指導しています。

朝のあいさつを続けることで、子どもたちはメンバーとおけいこ事の話もするようになる、下校時に事務所に寄ってきて釣り竿の話をしていくこともある、また、スーパーや町中で会っても声をかけてくるなど、コミュニケーションが密になっています。メンバーは子どもとの対話を楽しみにしており、パトロールは忙しくて健康になる、人のためではなく自分のためになるとやりがいにしています。

⑨活動の展開　横断幕であいさつ運動を周知

地域とのコミュニケーションは、朝のあいさつが一番抵抗がなくてしやすいと始めたあいさつ運動ですが、小学校の正門前道路を「あいさつ通り」と連合自治会で決定し、その横断幕を掲げた影響が大きく、住民の間であいさつ運動への認識が共有されています。子どもだけでなく、あいさつ通りを通る郵便局、警察、裁判所、関電、市役所への通勤者も互いにあいさつをし、また、メンバーにごくろうさまの声もかかります。

また、子どもの登校時の見守り活動をすることで、祖父母からお世話になってありがとうの声がメンバーにかかります。

あいさつをかわすことでまちが明るく、元気になっています。

ひとことメッセージ

これまでの取り組みを積み上げ、平成21年12月の年末には、町内会、防犯協会など地域の全組織に働きかけ、子どもも大人も参加する年末の防犯パトロールが実現しました。

組織を新たに作らずに前からある組織をうまく使っていく手法を考えることは難しいことですが、組織がうまく回るコツです。